

卒業生インタビュー

2020年 彩の国東大宮メディカルセンター 初期研修医

2022年 整形外科専門研修プログラム開始

関東圏内の大学病院に在籍

2026年 彩の国東大宮メディカルセンター

整形外科の常勤として入職



自分を育ててくれたこの病院に

少しでも貢献できるように恩返しがしたい

彩の国東大宮メディカルセンター 初期研修医として入職



初期研修中の思い出は？

研修医としての最初の2年間はコロナ禍真っ只中であり、通常とは異なる環境でした。

色々なことが制限される中でも、産婦人科や小児科など外病院での研修が組み込まれた

プログラムだったので、楽しく研修できました。

整形外科に進もうと思ったきっかけは？

入職当初は整形外科と決めていたわけではなかったのですが、

整形外科の先生方の当直に付かせてもらった際、その雰囲気が良く「楽しいな」と感じたことが

きっかけです。



8名の同期たちと

初期研修修了後、専攻医としての研修はどうでしたか？

卒業後、1年間は本当に大変でした。

周りに相談できる人がいない中でのスタートラインは、どの診療科に進んでも大変だと思います。

初期研修中は指導医に相談していたことも、最後は自分で「こうだ」と自分の責任で決めなくてはいけない。

どう頑張ってもギャップがあるので、それを少しでも埋めるための、初期研修中に経験した手技や、裁量権を持ってやらせてもらえたことが良かったです。



専攻医時代 ～埼玉県内の市中病院から、がん専門病院、大学病院など様々な研修施設での経験～

卒業して感じた、東大宮の魅力とは？

初期研修の頃から膝の穿刺や縫合、救急での対応など、多くの手技を実際にやらせてもらえる環境でした。

これは大学病院などに戻った際、他の医師と比較しても「自分は経験がある」という自信に繋がりました。

自分自身が教える立場になって気づいたことですが、教えるって大変だなと感じました。

東大宮の指導医の先生方は、研修医が手技を失敗しても、すぐに取り上げるのではなく、

時間がかかっても若手に「まずはやらせてみる」という忍耐強い指導文化があるところが魅力です。



初期研修での採血研修

専門研修を終え、当院に戻ってきてくれた理由は？

4年間の専門研修を終えましたが、まだ一人前のスタートラインに立ったばかりで

手術力や技術はまだまだ研鑽が必要だと感じていました。

東大宮であれば自分が育ってきたところなので、自分を知ってくれているという安心感がありました。

なによりも、素晴らしい指導医の先生たちがいることを知っていたので、また先生方のもとで学びたいという気持ちでした。



今後の目標

整形外科医として一人前になるべく、日々研鑽を積みたい。育ててくれたこの病院に、少しでも貢献できるように恩返しがしたい。

今後は自分が教える立場になる。

「こんなこと聞いていいのかな？」と後輩が躊躇せず、何でも相談できるような、一番近い世代の指導医になりたい。

